

2015年3月20日

玉川大學教育博物館



## 目次

展覧会への招待……………	2
博物館の取り組み……………	3
報告・	
資料をご寄贈いただきました…	4
学内連携の教育活動……………	5
開館カレンダー・	
利用案内……………	6

## 新版子供あそび

歌川国利画 木版色刷

36.7 × 24.4cm 明治22 (1889) 年

錦絵の代表的主題には、美人画、役者絵、風俗画、風景画などがありますが、子どもを主題とした錦絵もかなり多く見られます。明治期には、伝統的な遊びに加えて、西洋の遊戯法も取り入れられ、子どもたちの遊びは多様化していきました。本図は歌川国利 (1847 - 1899) が描いた8図からなる子ども遊びの錦絵で、上段の右から順に、「てならい」「まりふせ」「はたとり」「だし」「はなび」「たがまわし」「まりうち」「ままごと」の様子が描かれています。この遊び絵はシリーズもので、他にも違う遊びの図が刷られていることから、当時人気があった錦絵だったと考えられます。

## 展覧会への招待

### ミュージアム・コレクション展 2015 錦絵にみる子どもの遊び

玉川大学教育博物館の教育史の所蔵資料は、江戸時代から現代に至る教育の歴史を調査研究し、展示や教育活動で有効に活用することを目的として、体系的に収集、整理、保存してきた資料からなります。内容は江戸期の幕府の学問所や藩校・郷校をはじめ、私塾、寺子屋を中心とした資料、明治期から昭和期にかけての学校教育の場で使われてきた教科書、掛図をはじめとする教材・教具や関係資料などですが、所蔵資料の中には子どもの遊びや生活に関わる資料も多数含まれています。これは、子どもの遊びをはじめとする生活文化が教育と密接な関係にあるという収集方針によるものです。

いつの時代においても、子どもたちの生活は遊びと切り離せません。子どもたちは、遊びの中から、あるいは一緒に遊ぶ仲間を通してさまざまなことを学んでいきます。また、社会性、情操、言語、思考力、体力、運動能力なども、遊びによって身に付けていく傾向がみられます。

この展覧会では、子どもにとって大切な遊びという生活文化を、幕末から明治期につくられた錦絵を中心に描かれている遊びに使われた玩具や道具から紹介いたします。錦絵には、年中行事や祭りの中で戯れる姿、川遊びや雪遊びなど季節の遊び、仲間と競い合い、ふざけ合う姿、玩具を使って遊ぶ姿など、当時の絵師たちが描いたさまざまな子どもの姿や遊びが見られます。中には幕末の政治状況を子どもの遊びで描いた風刺画もありますが、いずれの展示資料においても、子どもたちのいきいきとした雰囲気とともに、大人たちが子どもを見守る暖かでやさしい心を感じることができるでしょう。なお、会期中当時の遊びを体験できるワークショップや展示の見どころを解説するギャラリートークを計画しています。皆さまのご来館をお待ちいたしております。

**【展示内容】** 節句や年中行事の中での遊び／季節の遊び／身体を使った遊び／勝負を競う遊び／模倣の遊び／競技遊び／玩具や遊び道具を使う遊び（錦絵 60 点・玩具類 30 点）



子供遊勇当独楽（こどもあそびいさむあてごま）  
無款 大判錦絵二枚続 明治元（1868）年



小供風俗 たこあげ  
宮川春汀 大判錦絵  
明治 30（1897）年

- ◆会 期 2015年11月2日(月)～12月19日(土)
- ◆時 間 9:00～17:00（入館は16:30まで） ◆入館料 無料
- ◆会 場 玉川大学教育博物館 第2展示室

## 学園史料の整理について

教育博物館では、『玉川学園五十年史』を発行時に収集された数多くの史資料を引き継ぎ、その後も関係史資料の収集・整理・保存を継続しています。

史料は大きく2つに分けられます。一つは「(旧制)玉川中学校設立認可申請書」「(旧制)玉川大学設置認可申請」等の公文書を含む玉川学園・玉川大学に関わる資料。もう一つは、創立者小原國芳による機関誌『全人教育』執筆時の直筆原稿等、小原國芳に関わる史料です。

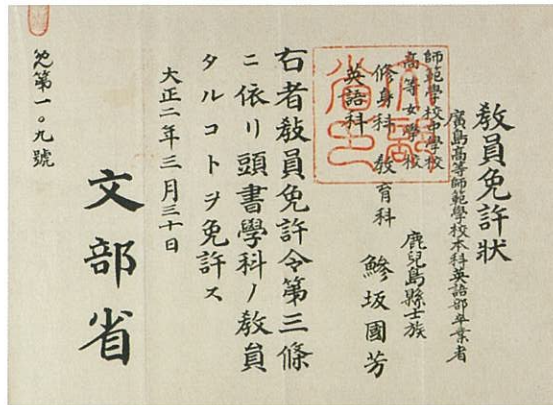
前者は『学園日記』『教育日本』等の戦前から現在までの機関誌や戦前戦後の学校案内、機関誌に掲載した著名人原稿、現在 K-12 と呼ぶ幼稚部から高等部そして大学に至る各部の教育課程、各部の自主教材や父母会報、創立当初の大きな出来事といえるオーストリアスキーのハンネス・シュナイダーやデンマーク体操のニルス・ブック来日に関わる史料等、大変幅広い史料群です。後者は小原國芳の学生時代からの記念写真帳、小原國芳宛の書簡や葉書、卒業された各学校の卒業証書や辞令、筆跡等です。

現在これらの史料1点1点について内容・寸法・傷み具合等を調べ、写真に撮りデータベース化を進めています。2012年春から取り組みを始め、2014年末に9000点を超えました。これらに加え、映像や音声資料もあります。前者は8ミリ・16ミリで作成されていたフィルムで、創立草創期に来園したニルス・ブックの記録もあり、劣化が進んでいるためフィルムの修復と映像のデジタル化を進めています。後者は小原國芳の各部での礼拝説教、講話や授業中の話、学内で講演された著名人の音声記録です。これらは目下整理を行いながら、修復保存方法について検討中です。

整理作業中、大変貴重な史料の発見がありました。機関誌『全人』等に執筆された著名人による原稿が多数保存されていたのです。具体的には作家の武者小路実篤や三島由紀夫、大岡昇平、日本の宇宙工学の先駆者糸川英夫、思想家の平塚らいてう、教育者で明星学園創立者の赤井米吉、「とんび」等の作詞者である葛原しげる等々多彩な顔ぶれです。これらからも創立者の人脈の広さを知ることができるでしょう。

このように、データベース化の過程で、学園史を構築する史料を数多く確認することができました。2018年を目途にデータベースに基づき、学園史料の目録を作成・刊行し、来るべき学園創立90周年に備えることとしています。

なお、整理を進めるにあたり、下記のような史料が足りないことがわかりました。戦前の学生歌集『愛吟集』等の玉川学園発行印刷物、戦前の教育課程、児童生徒学生の成績表(通信簿)、創立期から1960年代頃までの学内地図、教員作成の自主教材、学生証、諸行事の関係文書、戦前戦後の校友会誌、中学以上各部の部活動の写真、幼小中高大各部から家庭宛てお知らせ文書、小原國芳から個人宛に出された書簡や葉書。これら紙史料以外に大学クラブ徽章、学園名が書かれているグッズや記念品等のモノ史料も足りません。御寄贈いただければ幸いです。(白柳弘幸)



小原(鯉坂)國芳の教員免許状(1913年)

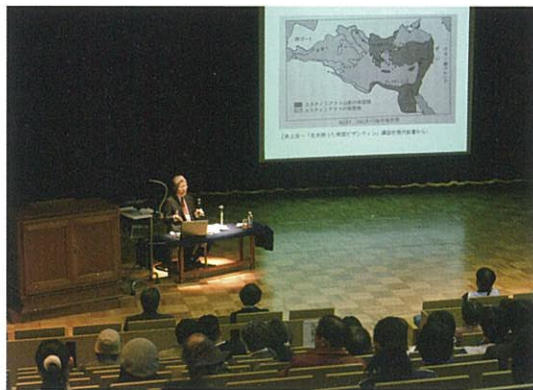
# 報 告

## 企画展開催

特別展「東と西のキリスト教美術—イコン・西欧絵画コレクションから」を、2014年11月3日から2015年1月25日まで開催し、のべ58日間で1,808名のお客様をお迎えしました。11月27日には、美術史家の西山重徳氏による講演会を開催したほか、会期中に計6回、学芸員による



ギャラリートーク



西山重徳氏講演会

ギャラリートークを実施しました。今回の展示に合わせ、「西欧宗教画コレクション」の図録（800円）を作成しました。

## 考古資料の移管

玉川学園考古学研究会（現在活動休止中）が1960～70年代に発掘調査した考古資料が、学内に保管されていました。これらは、主に町田市内に所在する遺跡からの出土品で、遺物整理箱で600箱余にのぼります。2014年12月にこれらが一括して当館に移管されました。今後研究会OBの協力を頂き、資料の整理と発掘調査報告書の刊行等を進めていきます。

## 博物館実習

通信教育部「学芸員スクーリング」 31名  
2015年2月7日～12日

## 統計（2014年4月～9月）

開館日数 121日 入館者数 2448名

### 収集

〔資料〕	日本教育史	241件
	考古	1件
	玉川学園関係	82件
〔図書〕	和書	196冊
	洋書	0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	31冊
	洋雑誌	17冊

## 資料をご寄贈いただきました（順不同・敬称略 2014年8月～2015年1月）

山口 高弘	考古資料	1点	山本 好昭	教育史関係資料	1点
黒子 恒夫	教育史関係資料	87点	青木 忠敬	教育史関係資料	25点
河合 明博	同窓会報等	3点	深見 邦芳	学園史関係資料	5点
山田 武	教育史関係資料	44点	杉山 武敏	同窓会報	1点
斉藤百合子	教育史関係資料	1点	首藤 元男	同窓会報	1点
則武 邦彦	教育史関係資料	1点			

ありがとうございました

## 学内連携の教育活動 大学生への教育活動

— リベラルアーツ学部「日本語指導法」との連携 —

教育博物館では様々な形で大学や K-12 と連携した教育活動を行っていますが、今年度からリベラルアーツ学部開講科目「日本語指導法」と協働した活動をはじめました。この講義では、日本語を教える知識や技術を学ぶことを目的としており、海外からの留学生（主として K-12 に相当する生徒）に日本語で説明を行う実習も行われています。この実習の場として教育博物館を活用するプログラムがはじまりました。博物館では展示室を学修の場として提供するだけでなく、担当教員と連携しながら受講生のサポートも行います。

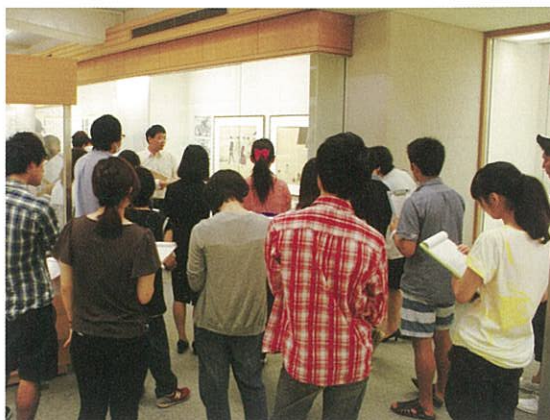
受講生は春学期と秋学期にそれぞれ 1 回から 2 回来館します。春学期では学芸員から展示室の説明を聞いたあと、指導教員の指示のもと数人ずつのグループに分かれます。そして、グループごとに留学生に説明する展示資料を 1 点決め、その資料調査や留学生に説明するための原稿を作成します。秋学期では原稿を手直しして、外国人に分かりやすい日本語におきかえる作業を行い、留学生を案内する手順を考えます。その成果をふまえ、10 月から 11 月にかけて台湾・稲江高校やドイツ・ゲーテ校の留学生に説明を行いました。

この活動の学びの意義は日本語指導に必要な知識や技術の修得という面ばかりではありません。「資料理解」という活動を通して、受講生自身が日本の歴史や文化に対する理解を深めることも重視しています。資料を人に説明するためには、説明者自身が資料の特性、用途や歴史的背景をふまえなければなりません。グループでの発表を前提としているため、グループ内で意見を調整して原稿をまとめる作業もあります。

こうした活動は日本語の学修とは直接的な関係がないようにもみえますが、外国人に日本語を教えるためには技術的な面での指導法の学修に加えて、日本語が使われている文化理解も必要です。実際に展示室の見学やグループ内でのディスカッションを通して、資料調査に真摯に取り組んだグループの原稿はしだいに練られたものになっていきます。

このような様々な準備を経て、受講生たちは本番を迎えます。キーワードを画用紙に大きく書いて留学生に説明するグループもあれば、クイズを行って留学生と対話型の説明をこころみるグループもあり、創意工夫をこらしています。こうした学修活動はアクティブラーニングの一つとして、今後ますます注目されていくのではないかと考えます。

(宇野慶)



学芸員による解説



台湾・稲江高校の留学生に説明

# 2015年度上半期 開館カレンダー

2015年 4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

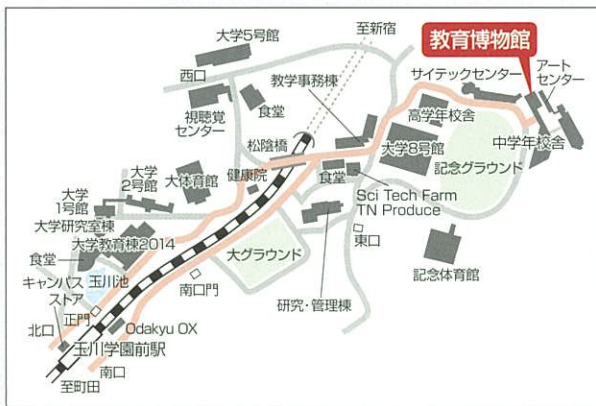
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

休館日

第1展示室(日本教育史等常設展示)のみ公開

※この予定は、大学授業・行事日程等により変更することがあります。

詳細は当館ホームページをご覧ください、電話等にてお問い合わせください。



## 利用案内

- 開館時間** 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日** 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間  
(日曜日・土曜日及び祝休日に大学の通常授業や学校行事が行われる場合、当館も臨時に開館することがあります。詳細はお問い合わせください。)
- 入館料** 無料

### 交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩15分  
駅南口を出て、線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館の建物の位置は、校門の案内所でお尋ね下さい。  
(来館者用駐車場はありません。また校内での園児・児童・生徒・学生の安全のため、お車での来館をご遠慮下さい。)

博物館ニュース SHŪ No.44

2015年3月20日

編集・発行 玉川大学教育博物館

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654

www.tamagawa.jp/campus/museum/

『SHŪ』とは『集』、さまざまな「集められたもの」をめぐり、多くの人々の「集いの場」になることを目指して名づけたものです。